

## 三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成28年8月29日

上海デスク（上海納克名南企業管理諮詢有限公司）

### どうなる？三菱自動車の中国ビジネス

燃費データ不正問題をきっかけに、三菱自動車が日産自動車の資本傘下となります。このことは、三菱自動車の中国ビジネスにも影響を与えます。

#### 外資自動車メーカーの中国参入には制限がある

中国では、開放当時から現在まで、自国自動車産業の保護を目的として、外資完成車メーカーの独資での経営を認めていません。中国内メーカーとの合弁が義務付けられ、資本割合は最大 50%に制限されます。また、外資完成車メーカー 1 社が合弁相手とする国内メーカーも 2 社までに制限されています。日系自動車メーカーも例外ではありません。

#### 中国のスバル車は、なぜ全て輸入車なのか

ところで、スバル（富士重工）は中国でも比較的人気が高いのですが、中国で販売するスバルの車は全て輸入車です。これは、中国内での製造拠点（合弁企業）開設を中国政府より長らく認められていないことが原因です。その理由として、「外資 1 社に合弁 2 社まで」というルールに抵触するためと考えられています。これは、スバルの現在の筆頭株主はトヨタ自動車（約 17% 保有）であることから、スバルを「トヨタグループ」の 1 社とみなした場合、スバルの合弁企業が「トヨタグループ」にとって 3 社目の合弁企業になる、と判断されるためのようです。

同様に、今回の日産自動車による三菱自動車への資本参加で、三菱自動車が「日産（+ルノー）グループ」とみなされた場合、合弁規定に抵触し、中国ビジネスを整理する必要に迫られる可能性があります。

#### 中国大陸の三菱自動車の今後はどうなる？

中国で居住している実感として、中国の都市部で三菱自動車が走っているのを見かけることは非常にまれです。むしろ海外からの輸入車であるスバルの車の方をよく見かけます。パジェロに代表される三菱自動車は、中国よりも東南アジア諸国での知名度や存在感が高く、中国でパジェロを見かけることは滅多にありません。日本では、「日産自動車にとって東南アジアでのシェア増加が、三菱自動車への資本参加の目的である」とも報道されているようです。

日産自動車の中国合弁企業である東風日産は、近年、日本で設計された車種以外に中国で設計された低価格帯の中国専用ブランド車を製造販売するなど、中国市場への多角化を進めています。そのような状況下で、中国で苦戦している三菱自動車の事業継続は、決して効率的とはいえないでしょう。

三菱自動車の中国での合弁企業である広汽三菱は、2012 年に湖南省長沙市に設立されたばかりですが、今後の形勢は予断を許しません。